

共通教養科目 共通基盤科目について

「共通基盤科目」では幅広い分野にわたる教養や基礎的学力、ジェネリック・スキル（一般的・汎用的な有用性をもつスキル）の育成を旨として、以下の科目を開講しています。

1 F Y S（必修）

F Y Sは全学共通の初年次導入教育科目（必修）です。F Y Sとは、ファースト・イヤー・セミナー（First Year Seminar）の略で、新入学生（1年次生）は少人数のクラスに分かれ、“大学への入門”をセミナー（演習）形式で学びます。本学では、このF Y Sを通して新入学生が大学での学修により早く適応できるようにサポートしています。

2 外国語科目（必修）

今日のグローバル社会において、外国語運用能力や異文化理解がますます不可欠となっていることから、外国語能力の一層の充実を図っています。

3 人文の分野

過去から現在に至るまで、人は常に「人間」の存在に関心を抱き、その探究に力を注いできました。「人文の分野」では、哲学・宗教・心理・歴史・文学・芸術などの諸分野の学習を通して、人間の存在に関わる様々な事柄とその本質、あるいは人間が生み出した多様な文化とその価値を、これまでよりも広く深く学び、豊かな教養を身につけることを目的としています。学生の皆さんには、この分野の学修を通して人間社会がこれまで積み上げてきた多様な価値観と豊かな文化を理解し、国際社会で通用する幅広い視野と文化的感覚・知的能力を培っていただきたいと思います。

4 社会の分野

現代社会は多様化と複雑化の一途をたどり、便利さと同時に様々な問題をも生み出しています。例えば、国境を越えたヒト・モノ・カネの移動は、政治や経済のみならず教育や文化、さらには環境や食品などの分野にも大きな影響を与えています。このような現代社会をどのように把握したらよいのでしょうか。「社会の分野」における科目は、現代社会の多様な諸問題に対して、学際的かつ多面的な把握をするために必要な、様々な学問分野の基礎的概念（理論と体系）を学ぶことを目的としています。学生の皆さんには、政治学、経済学、法学、社会学などそれぞれの学問分野の知識や思考方法を身につけ、多様な問題を解決するために必要な能力を修得していただきたいと思います。

5 自然の分野

人文、社会、自然など、どのような分野であれ、私たちが何かの対象について理解しようとするとき、ただそれらを漠然と眺めているだけでは対象を理解することはできません。対象を理解するためには、それにふさわしい言葉、方法、道具からなる枠組みが必要になります。私たちを取り巻く自然の成り立ちや変化、また私たち人間と自然との関わりを理解しようとするときに、必要となる基本的な言葉、方法、道具を提供するのが自然の分野の科目群です。具体的には、自然を表現するために必要となる普遍的な言葉（概念、数式等）を提供するのが数学関連の科目であり、これらの言葉を用いて自然の成り立ちや変化を理解する方法と道具を提供するのが物理学、化学、生物学関連の科目です。また、自然の分野を学ぶ上で必要となる、情報処理の考え方と方法を提供するのが情報関連の科目です。

「自然の分野」における考え方・方法と、「人文や社会の分野」における考え方・方法との違いを知ることは、自分の理解の幅を広げることにつながりますので、「人文や社会の分野」と「自然の分野」をバランスよく履修することを勧めます。

6 人間形成の分野

「人間形成の分野」は、「幅広い教養と人間形成」を育むための分野として、本学での学びを人間形成の観点から自覚的に捉えることを促す主旨で設置しています。具体的には、自己表現力や対人関係力のほか、自ら課題を見つけ、解決

へと導いていく問題解決能力を養う「キャリア形成に関する科目」、健康に関する理論と運動実践を通して、社会生活につながる健康の自己管理のための動機付けとなる知識とその方法を学ぶ「健康科学に関する科目」を配置しています。

「健康科学に関する科目」は、適切な身体運動を媒介として、将来必要とされる心身の能力を高めることを目標に、豊かな人間性を育成することをめざしています。学生時代は、一生を支配する世界観やライフスタイルを樹立する大切な時期でもあり、この時期に、健康と運動に関する知的理解を深め、道徳的に正しいことを判断し、実践する精神力や豊かな心を育成することが重要です。